

第18回(平成29年度)

神戸大学大学院国際文化科学研究科公開講座

ひょうご講座2017



受講者募集要項

変動する国際秩序:

アメリカ、中国、ドイツ、イスラム世界の観点から



- どなたでも無料で受講できます。ただし、定員(200人)に達し次第、受付を終了いたします。
- 申し込み方法は裏面または研究科ホームページをご覧ください。 <http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>

1. 講座の目的と概要

現在、第二次世界大戦後に構築されてきた国際秩序が動揺しています。トランプ政権の誕生にともない、各国は外交・安全保障政策の見直しを迫られています。ヨーロッパ諸国は、大量の難民の流入、度重なるテロ、ブレグジットといった難題に直面しています。東アジアでは、南沙諸島や尖閣諸島などをめぐって領土問題が噴出しています。

世界規模で起こっている変動を総体として理解するためには、複眼的な視点が求められます。主要国・地域の利益、国際秩序観、力関係はどのように変化しているのでしょうか。そして、それはどのような要因によって生じているのでしょうか。本講座では、アメリカ、中国、ドイツ、イスラーム世界から、変化する国際秩序の全体像を探っていきます。

10月14日には、まず、アメリカと中国を取り上げます。第一講義では、トランプ政権の外交政策の特質について、国内政治の変容と関連付けながら論じます。第二講義では、これまで中国が国際社会で果たしてきた役割について概観したうえで、今後中国はどのような国際秩序を構築していこうとしているのかを展望します。

10月21日には、ドイツとイスラーム世界が取り上げられます。第一講義では、メルケル政権の外交政策について、国際関係や国内政治の変化を視野に入れつつ論じます。第二講義では、イスラーム世界の多様性を確認したうえで、イスラーム諸国が国際秩序においてどのような役割を担おうとしているかについて考察します。

2. 期間及び日程

平成29年10月14日(土)、10月21日(土)の2日

詳しくは裏面の「講義日程・題目及び講師」をご覧ください。

3. 受講対象者

一般社会人、学生(中学生以上)

4. 募集人員

200人(先着順受付)

5. 講習料

無料

6. 受講申込方法

(1) 受付期間：**平成29年9月1日(金)から9月22日(金)まで**

ただし、定員に達し次第、受付を終了します。

申込期間外の受付はできません。上記期間内にお申し込み下さい。

申込受付期間終了後、「受講証」を郵送します。

(2) 申込方法：同封の「受講申込書」に必要事項を記入し、下記に郵送、FAXまたはE-mailで送信してください。「受講申込書」は研究科ホームページ(<http://web.cla.kobe-u.ac.jp/>)よりダウンロードすることもできます。

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学国際人間科学部鶴甲第一キャンパス事務課総務係

FAX番号 078-803-7509

e-mail gicls-soumu@office.kobe-u.ac.jp

(3) 問い合わせ先：

神戸大学国際人間科学部鶴甲第一キャンパス事務課総務係

電話番号 078-803-7515

e-mail gicls-soumu@office.kobe-u.ac.jp

7. 公開講座会場

国際文化化学研究科 B棟110教室(1階)

8. 公開講座会場の案内図

●交通機関

阪急六甲駅、JR六甲道駅、阪神御影駅より、
神戸市バス16系統「六甲ケーブル下」行きに乗車、
「神大国際文化化学研究科前」下車



講義日程・題目及び講師

| 日程・時間 | | 講義題目・講師 | 講義内容 |
|-------------------|-----|---|---|
| 13:10 ~ 13:20 開講式 | | | |
| 10月14日(土曜日) | 第1回 | 13:20 ~ 14:50 「トランプ政権の外交政策とその背景」 ■国際関係・比較政治論コース准教授 安岡 正晴 | 世界の予想を裏切り2016年大統領選挙を制し、大統領に就任したトランプ大統領だが就任早々から、イスラーム教7か国の入国禁止令、TPP脱退、パリ協定脱退など、内外の不安の声を裏打ちするような強引で問題の多い外国政策を展開する一方で、選挙中は激しく批判していた中国に対して北朝鮮対応での協力の必要性を理由として協調姿勢を示しており、またNAFTAについても再交渉するとかかなりトーンダウンしている。トランプ大統領はツイッターなど通じて一方的で気まぐれな発言を繰り返しているため、ティラーソン国務長官やマクマスター安全保障担当補佐官、マティス国防長官などの発言との食い違いなど政権内での不統一もすでに露呈しており、外交チームとしてまとまっているとは言い難い。トランプ政権の主要人物、議会共和党は果たしてどのような考えで外交に臨み、そうした方針とトランプ大統領個人はかみ合っているのか、かみ合っていないのか？経験も乏しく、統一的な世界観を持たないトランプ大統領下でどのような外交が展開され、それが世界にどのような影響を与えているのか？レーガンやブッシュ親子といった過去の大統領や前任者であるオバマなど過去の大統領とも比較しながら検討してゆきたい。 |
| | 第2回 | 15:10 ~ 16:40 「中国の台頭と国際秩序」 ■アジア・太平洋文化論コース准教授 谷川 真一 | 近年、「中国の台頭」が世界史的な趨勢となるなか、中国の国際協調の場での積極的な行動が目立つようになってきている。とりわけここ数年の間に相次いで打ち出されたアジアインフラ投資銀行(AIIB)と一帯一路経済圏構想は、期待とともに不安を引き起こしている。膨大なインフラ建設のための資金を必要としているアジア諸国や、インフラ事業への参入や貿易面での市場拡大を期待するヨーロッパ諸国が期待を寄せる一方で、中国の台頭に外交上・安全保障上の不安を抱く日本やインドなど周辺国や、国際秩序構築をめぐる中国と対抗関係にあるアメリカは今のところ中国の戦略意図を推し量っているかのようである。このようななか、今年に入りアメリカでトランプ政権が誕生し、TPP(環太平洋パートナーシップ)やパリ協定から相次いで離脱したことによって、中国の台頭という歴史的趨勢はさらに加速しつつあるように思える。 一方、中国の急速な台頭は、南シナ海や東シナ海での領有権をめぐる問題に象徴されるように近隣諸国との摩擦や、香港、台湾の「周縁ナショナリズム」との緊張関係を生み出している。本講座では、中国の国際協調の場での戦略的意図を探るとともに、中国の台頭とともに強まる「周辺」「周縁」との摩擦について考えていく。 |
| 10月21日(土曜日) | 第3回 | 13:20 ~ 14:50 「メルケル政権の外交と政治」 ■国際関係・比較政治論コース准教授 近藤 正基 | ユーロ危機、北アフリカやシリアからの難民流入、ブレグジット、各国で台頭する右翼ポピュリズム政党。戦後ヨーロッパを支えてきた政治・経済メカニズムが揺らいでいる。EUへの不信感は強まっており、ヨーロッパ諸国のまともさは以前ほど強固ではない。移民や難民の排斥を掲げる右翼ポピュリズム政党はヨーロッパの自由民主主義に対する脅威でもあり、すでにポピュリズム政権が誕生した国すらある。ヨーロッパ各国間の経済格差もなかなか縮まる気配を見せておらず、ユーロに対する不信感も根強い。EUの外部に位置するロシアやトルコの権威主義的政権との関係は悪化しており、アメリカとも顕密な連携がとれなくなってきた。このような困難な局面で、ますますドイツの動向に注目が集まるのは自然なことだろう。親EUであり、経済大国でもあるドイツ。政治的にもさらに重要性を増しつつある。本講演では、ドイツに焦点を当てて、その外交と政治を論じる。12年目をむかえたメルケル政権はどのような外交方針のもとに行動しているのだろうか。国内政治の動向と関連付け、歴代政権との比較も交えながら論じていく。 |
| | 第4回 | 15:10 ~ 16:40 「イスラーム世界から見える国際秩序」 ■国際関係・比較政治論コース准教授 中村 寛 | 国際政治は、無政府(アナーキー)であり、世界に共通するルールや秩序は存在していない。欧米の大国と、中国やインドを筆頭とするアジアの新興国のどちらも、国益を重視し産油国との関係強化を図っているが、中東の武力紛争やテロ問題を解決するために効果的な政策を欠いている。イスラーム諸国は、途上国の緩やかな提携でもあるが、大国政治に対する異議申し立てを表明し、発展と平和を渴望している。このような構造の中でサウディアラビアのようなイスラーム国家は、大国政治のパターンを心得て、中東の荒波を現実的に切り抜け生存を図ってきた。本講では、揺らぐトランプ政権の中東政策・対ムスリム政策、国際エネルギーや国際貿易の安定性、長引くISIS問題やテロ対策、イランとサウディアラビアの緊張関係、革命や民主化の行方などに関して、報道には現れにくい情報を活用して解説する。イスラーム世界の日本への期待と好感度は、技術、投資、教育、文化交流などで非常に高い。そこで、イスラーム世界、欧米、アジア諸国と日本の友好関係を願う観点から、イスラーム世界の多様性に対する日本の戦略の現状にも触れてみたい。 |
| 16:40 ~ 16:50 閉講式 | | | |